

## 平成29年度市民提案型パートナーシップ事業

### 「江間みのり会による地域活性化事業」

#### 報告会資料



#### 江間みのり会

## 【事業目的】

地域の田畑を活用し、アイガモによる米作りや無農薬による野菜作りを、地域の子供たちに周知して行い、その農作業活動に参加して自ら体験すことを通して、生命や自然の尊さ、また地域の魅力を学び、地域との連携を深めていく。

## 【事業内容・成果】

地域の田畑を活用し、アイガモ農法による米作りとサツマイモ作りを行った。特に、アイガモの雛の放鳥やサツマイモ掘り大会には、市内外から親子連れの参加があり、盛大に行うことができた。自ら参加し体験することで、自然の大切さ、農業の素晴らしさを学ぶ機会を提供できたと思う。

## 【今後について】

パートナーシップ事業も3年間行い、今年度で終了となるが、今後も江間みのり会として、アイガモによる米作りとサツマイモ作りの2本立てで事業を継続していく予定である。

## 【役割分担】

### \*江間みのり会

米作り・サツマイモ作りに係る農作業の補佐及び育成管理  
地域の子供に対して、農作業体験・試食会等の周知

### \*伊豆の国市

事業に係る広報・資料作成

## 江間みのり会とは・・・

われわれ江間みのり会では、地球温暖化や廃棄物の増大等の防止が急務であると考え、また自然豊かな田方平野を後世に引き継ぐためにも、環境に配慮した行動に努め、広く地域社会に貢献いたします。以下の3本柱を環境方針に掲げ活動しています。

### 3本柱

1. 事業活動を通じて自主的・積極的に環境保全活動に取り組む。
2. 関連する環境法令・条例等を厳守するとともに、行政・地域等の要請に協力する。
3. 地域での社会貢献活動に努める。

## 【活動内容】

### 米作り

平成29年

- 6月 1日 耕うん
- 6月 3日 代かき
- 6月10日 ネット張り等
- 6月12日 アイガモ購入(千葉へ)
- 6月17日 人力草取り等
- 6月18日 アイガモ放鳥イベント
- 8月10日 カモ移動(イモ畑へ)
- 10月10日 カモ解体
- 11月21日 稲刈り等
- 12月29日 餅つき大会
- 12月31日 耕うん

平成30年

- 1月 4日 菜の花種まき



### サツマイモ作り

平成29年

- 7月 8日 畑 耕うん
- 7月13日 畑 畦たて
- 7月16日 サツマイモつるさし及び水かけ

～

11月26日 イモ堀り大会

平成30年

- 2月18日 片付け(マルチなど)
- 2月25日 畑 耕うん
- 3月 4日 竹チップ散布(4㎡)・耕うん



## 【活動のようす】



### アイガモ放鳥

6月18日、みのり会会員や地域の親子約30名が集まり、水田にアイガモの雛20羽の放鳥を行いました。始めはおそるおそる触っていた子供たちも「小さくてふわふわ。かわいい」と大事そうに抱き上げて田に放していました。

※アイガモ農法の効果※

- ①水田内の除草
- ②水田内のウンカ類など害虫を好んで食べるため害虫防除効果がある。
- ③泳ぎながら水田を掻き回し、水田内に酸素を供給するとともに、水田を濁らして水温をあげ稲の成長を助ける。
- ④稲についている虫を食べたり、アイガモが動くことによって与えられる接触刺激が稲を茎太で株張の良いしっかりとした稲を作る。
- ⑤アイガモの排泄する糞尿は、有機肥料となる。





## アイガモ引越し

8月10日、アイガモも稲もすくすく育ってきたので、サツマイモ畑へ引越しました。地域の子供たちがアイガモの様子を見に来てくれていたので、お引越しをお知らせしました。



## アイガモ解体

10月10日、15羽のカモを解体しました(22羽中7羽死亡)。今回はベトナム人の方8名と一緒にを行いました。





## サツマイモ掘り大会

11月26日、サツマイモ掘り大会を行いました。畑は約2000平方メートル。7月に2000本のベニアズマのつるをさしました。この畑では、例年化学肥料等を使用せず、耕うんのみでイモを育てています。

当日は、市内外から親子連れが訪れ、サツマイモ掘りを楽しみました。長さ20～30センチの見事なサツマイモが約1.5トン収穫されました。





## 餅つき大会

12月29日、アイガモ農法で育てたもち米約40キロで20臼の持ちをついて、訪れた親子連れ等にふるまいました。参加者はつきたてのおもちにあんこやきな粉、大根おろしをつけておいしくいただきました。餅つきに挑戦する小学生もいました。



## 竹チップ散布

3月4日、会員4名で竹パウダー4立方メートルを人力でまきました。

※竹チップパウダーとは、竹専用の破砕機で竹をにしたもの。肥料としては、窒素・リン酸・カリはほとんどないが、土壌改良材として使うと、乳酸菌の力で野菜の甘味や葉物の育ちがよくなる。本来なら破砕後すぐにビニール等で空気をできる限り抜いて嫌気状態をつくって保存するが、今回は、市内の工事現場から調達した竹チップ4立方メートルをサツマイモ畑に散布し、すぐに耕うんをしっかりと。ちなみに竹チップは10キロ=1500円くらいで市販されている。

